

VMware vRealize Automation 6.2.1 リリース ノート

最終更新日 2017年09月22日

vRealize Automation 6.2.1 | 2015 年 3 月 12 日 | ビルド 2553372

VMware Identity Appliance 6.2.1 | 2015 年 3 月 12 日 | ビルド 2496259

vRealize Automation Application Services 6.2.0 | 2014 年 12 月 9 日 | ビルド 2299597

更新日: 2015 年 8 月 20 日

リリース ノートへの追加や更新は、定期的に確認してください。

アップグレードの前提条件

vRealize Automation 6.2.1 にアップグレードする前に、Identity Appliance および Virtual Appliance の root パスワードの古さを確認する必要があります。root パスワードの使用期間が 365 日以上の場合、アップグレードの実行前にパスワードを変更する必要があります。root パスワードの使用期間が 364 日以内の場合は、アップグレード手順を進めます。

以下の手順でパスワードの古さを確認します。

1. 6.1.x または 6.2 の vRealize Automation アプライアンスに SSH でログインするか、ユーザー名 root とパスワードを使用して、アプライアンスをデプロイしたときに指定した仮想マシンコンソールにログインします。
2. chage -l コマンドを実行します。

chage -l コマンドの出力が表示されます。この例では、**Last Change** フィールドの日付が過去 364 日以内です。

```
Minimum: 0
Maximum: 365
Warning: 7
Inactive: -1
Last Change: Dec 29, 2014
Password Expires: Dec 29, 2015
Password Inactive: Never
Account Expires: Never"
```

3. **Last Change** フィールドで報告されている日付が過去 364 日以内の場合には、アップグレードに進みます。

4. **Last Change** フィールドで報告されている日付が過去 365 日以前の場合には、アップグレードの前にパスワードを変更する必要があります。

バージョン 6.2.1 にアップグレードするには、「[Upgrading vCloud Automation Center 6.1 to vRealize Automation 6.2](#)」の手順に従います。

vRealize Automation でサポートされているアップグレード パス

vRealize Automation でサポートされているアップグレード パス
--

次の表に、vRealize Automation 6.2 以降の最新バージョンにアップグレードするための手順を示します。

現在インストールされているバージョン

vRealize Automation 6.2 以降にアップグレードする手順

- **選択肢 1:**

1. vRealize Automation 6.1 を別の新しい展開としてインストールします。
2. 移行前のタスクを実行し、移行ツールを実行して、vRealize Automation 6.1 の展開を完了します。
3. 6.2.1 にアップグレードします。

詳細については、「[Migrating to vCloud Automation Center 6.1](#)」および「[Upgrading to vRealize Automation 6.2 or Later](#)」を参照してください。

vCloud Automation Center
5.2.1 または 5.2.2

- **選択肢 2:**

1. vCloud Automation Center 5.2.3 にアップグレードします。
2. vRealize Automation 6.2.1 を別の新しい展開としてインストールします。
3. 移行前のタスクを実行し、移行ツールを実行して、vRealize Automation 6.2.1 の展開を完了します。

詳細については、「[Migrating from vCloud Automation Center 5.2.3 to vRealize Automation 6.2](#)」および「[Upgrading to vRealize Automation 6.2 or Later](#)」を参照してください。

vCloud Automation Center
5.2.3

1. vRealize Automation 6.2.1 を別の新しい展開としてインストー

ルします。

2. 移行前のタスクを実行し、移行ツールを実行して、vRealize Automation 6.2.1 の展開を完了します。

詳細については、「[Migrating from vCloud Automation Center 5.2.3 to vRealize Automation 6.2](#)」および「[Upgrading to vRealize Automation 6.2 or Later](#)」を参照してください。

vCloud Automation Center
6.0.x

1. 6.1.x にアップグレードします。
2. 6.2.1 にアップグレードします。

詳細については、「[Upgrading to vCloud Automation Center 6.1](#)」および「[Upgrading to vRealize Automation 6.2.x](#)」を参照してください。

vRealize Automation 6.1

6.2.1 にアップグレードします。詳細については、「[Upgrading to vRealize Automation 6.2.x](#)」を参照してください。

vRealize Automation 6.2.0

6.2.1 にアップグレードします。詳細については、「[Upgrading to vRealize Automation 6.2.x](#)」を参照してください。

リリース ノートの概要

本リリース ノートでは、次のトピックについて説明します。

- [新機能](#)
- [システム要件とインストール](#)
- [ドキュメント](#)
- [解決した問題](#)
- [既知の問題](#)
- [廃止された機能とサポート](#)

新機能

この vRealize Automation リリースでは、次のように機能が拡張されています。

vSphere でプロビジョニングされるマシンに対するリモート コンソール機能

- vSphere でプロビジョニングされるマシンに対する安全なリモート コンソール機能は、このリリースではコンソール プロキシ経由の WebMKS (HTML 5 コンソール) によって実装されます。この機能には次の制限事項があります。

- 古いブラウザの技術的な制限のため、vRealize Automation は Internet Explorer 8 および 9 では安全なリモート コンソールをサポートすることができません。
- vSphere のサポートには ESXi 5.1 が必要です。vCenter 5.1 以降を使用し、ホストを ESXi 5.0 以前で実行している場合、WebMKS を使用してこれらのホスト上の仮想マシンに接続することはできません。

vRealize Automation 6.2 のフレッシュ インストールから 6.2.1 にアップグレードする場合、消費者がこのオプションを使用できるようにするには、アップグレードされたブループリントの [アクション] タブの [リモート コンソールに接続] アクションを選択する必要があります。vRealize Automation 6.1 を 6.2 にアップグレードしてから 6.2.1 にアップグレードし、[リモート制御に接続] アクションが 6.1 のブループリントに対して選択されていた場合は、このアクションは必要ありません。

システム要件、インストール、およびアップグレード

サポート対象のホスト オペレーティング システム、データベース、および Web サーバについては、[vRealize Automation のサポート マトリックス](#) (英語) を参照してください。

その他の前提条件およびインストール手順については、VMware vRealize Automation 6.2 ドキュメント センターの「[vRealize Automation Installation and Configuration](#)」を参照してください。

バージョン 6.2.1 にアップグレードするには、「[Upgrading vCloud Automation Center 6.1 to vRealize Automation 6.2](#)」の手順に従います。

ドキュメント

vRealize Automation のドキュメント セットには、バージョン 6.2.1 で導入されたすべての新しい機能をサポートする更新情報が含まれています。

vRealize Automation 6.2.1 のすべてのドキュメントにアクセスするには、「[VMware vRealize Automation 6.2 ドキュメント](#)」に移動します。

解決した問題

解決した問題には、次のトピックが含まれます。

- [構成とプロビジョニング](#)
- [ネットワーク](#)
- [Application Services](#)

構成とプロビジョニング

- **互換モードでは新規ブループリントおよび新規予約のページにタブが表示されない**

Internet Explorer 11 で互換モードを有効にして、**[インターネット サイトを互換表示で表示する]** オプションを無効にし、vRealize Automation にログインすると、新規ブループリント ページおよび新規予約ページのタブが表示されません。

この問題は解決しました。

- **再プロビジョニング アクションで最初のカスタム プロパティのみが適用される**

マシンをプロビジョニングした後で再プロビジョニングすると、再プロビジョニング タスク中に適用されたカスタム プロパティは更新されず、最初のカスタム プロパティのみが適用されます。

この問題は解決しました。

- **多くのマルチマシンが展開されている場合、AppServiceState ワークフローで Model Manager Web サービスおよび DEM ワーカーの CPU が過剰に使用される**

AppServiceState ワークフローは、5 分ごとに実行されるようにスケジュールされています。システムがある程度の規模になると、前の AppServiceState ワークフローが完了する前に次の AppServiceState ワークフローの実行がスケジュールされます。そのため、Model Manager Web サービスの CPU 使用率が常に高い状態になることがあります。

この問題は解決しました。

ネットワーク

- **ルーティング ネットワーク プロファイルの IP 範囲は、IP アドレスが使用されていないくても、割り当て済みとして表示される**

マルチマシン ブループリントにルーティングされた外部ネットワーク プロファイルが含まれ、コンポーネント ネットワーク アダプタへの割り当てではない場合、マシンは正常にプロビジョニングされますが、実際には使用されていないルーティング ネットワーク プロファイルからの IP アドレス範囲が割り当てられます。

この問題は『マルチマシン サービスの IaaS 統合』ドキュメントで解決されました。VMware vCloud Automation Center 6.2 ドキュメント センターの「[ルーティング ネットワーク プロファイルの IP 範囲の設定](#)」を参照してください。

Application Services

- **AWS eu-central-1 リージョンを Application Services 6.2 で使用できない**

AWS を eu-central-1 リージョンで展開しようとする、展開が失敗し、「予期しないエラーが発生しました。システム管理者にお問い合わせください。」という内容のエラー メッセージが表示されます。

この問題は解決しました。

既知の問題

既知の問題には次のトピックが含まれます。

- [インストールとアップグレード](#)
- [移行](#)
- [国際化](#)
- [ネットワーク](#)
- [Application Services](#)
- [Advanced Service Designer](#)
- [構成とプロビジョニング](#)

既知の問題で以前記載されていなかったものには、* 記号が付加されています。

インストールとアップグレード

- **登録済みサービス ページに、sts-service が登録済みとして表示されない***
他のすべてのサービスには [REGISTERED] が表示されますが、sts-service には何も表示されません。これは正常な動作であり、sts-service が登録されていないわけではありません。
- **vCenter PSC (Platform Services Controller) バージョン 6.0 にアップグレードした後で、vRealize Automation にログインするとエラーが発生する***
vCenter PSC (Platform Services Controller) バージョン 6.0 にアップグレードした後で、vRealize Automation にログインする際に、「VMware Client Integration Plugin のエラーにより Windows セッション認証ログインが失敗しました」という内容のエラー メッセージが表示されます。
「vmware_csd プロセスを実行するアプリケーションがありません」というメッセージのダイアログ ボックスが表示されることもあります。ログインするには、クライアント統合バージョン 6.0 が必要です。
回避策: <http://vsphereclient.vmware.com/vsphereclient/VMware-ClientIntegrationPlugin-6.0.0.exe> から Client Integration Plugin をダウンロードし、vRealize Automation に再度ログインします。
- **vSphere 6.0 に vCenter PSC (Platform Services Controller) バージョン 6.0 が導入されたことにより、vsphere.local 以外のテナント名を指定できてしまう***
vRealize Automation を構成する際、仮想アプライアンスの [SSO] タブにテナント名を入力できないため、vRealize Automation には、デフォルトのテナント名として vsphere.local が必要です。
回避策: vSphere 6.0 では、テナント名を vsphere.local から変更しないでください。
- **vCenter Server をバージョン 5.5 U2 から 6.0 にアップグレードすると、vSphere Web Client ログイン画面には VMWare vCenter Single Sign-On の代わりに VMware vCloud Automation Center が表示される***

vCenter Server が Platform Services Controller (PSC) によって構成され、vRealize Automation も構成されている場合にアップグレードを実行すると、vSphere Web Client のログイン画面に、VMware vCenter Single Sign-On ではなく VMware vCloud Automation Center が誤って表示されます。これは、vRealize Automation で、**[ブランディングの適用]** オプションが選択されていない場合にも発生します。

- **vCenter SSO 5.5 から PSC (Platform Services Controller) 6.0 にアップグレードした後で、vCenter 5.5 SSO によってvRealize Automation に作成されたテナントを編集できない (Windows ベースの SSO のみ) ***

vCenter SSO 5.5 に接続中にテナントを作成し、PSC 6.0 にアップグレードした後でそのテナントを編集しようとすると、編集処理は失敗し、次のエラー メッセージが表示されます：システム例外。詳細については、[ナレッジベース 2109719](#) を参照してください。

- **Platform Services Controller 6.0 にアップグレードした後にデフォルトのテナント URL (https://FQDN_VA/vcac) にアクセスすると、vRealize Automation アプライアンスの SSO 登録でポート 7444 が有効でなくなったために 400 Request エラーが発生する***

仮想アプライアンスをアップグレードされた Platform Services Controller 6.0 に再登録しようとすると、仮想アプライアンスに、「ホスト vra-va-hostname.domain.name およびポート 7444 でリモート SSO にアクセスしようとしています、返されるホストは vra-va-hostname.domain.name およびポート 443 です」という内容のエラー メッセージが表示されます。

回避策: 次の手順を実行します。

1. 完全修飾ドメイン名、https://vra-va-hostname.domain.name:5480 を使用して、vRealize Automation アプライアンス管理コンソールに移動します。
2. ユーザー名 root と、アプライアンスをデプロイしたときに指定したパスワードを使用してログインします。
3. **[vRA の設定]** タブをクリックします。
4. **[SSO]** をクリックします。
5. SSO サーバの設定を入力します。これらの設定は、SSO アプライアンスを構成する際に入力した設定と一致する必要があります。
 - a. **[SSO ホスト]** テキスト ボックスに sso-va-hostname.domain.name の形式を使用して SSO アプライアンスの完全修飾ドメイン名を入力します。プリフィックス https:// は使用しないでください。たとえば、**vra-ssomycompany.com** のように入力します。
 - b. **[SSO ホスト]** テキスト ボックスには、デフォルトのポート番号 7444 が表示されています。この値を 443 に変更します。
 - c. デフォルトのテナント名 vsphere.local は変更しないでください。
 - d. **[SSO 管理者ユーザー]** テキスト ボックスに、デフォルトの管理者名 administrator@vsphere.local を入力します。

- e. [SSO 管理者パスワード] テキスト ボックスに、SSO 管理者パスワードを入力します。
- f. **[ブランディングの適用]** を選択します。
- g. **[設定の保存]** をクリックします。
- h. **[OK]** をクリックします。

数分後、成功のメッセージが表示され、[SSO ステータス] が [接続中] に更新されます。

- i. **[サービス]** タブに移動し、すべての仮想アプライアンス サービスが実行されてから製品に再度ログインしてください。

- **vRealize Automation と SSO 5.x を vCenter PSC 6.0 にアップグレードした後に、テナントにアクセスできず、内部エラーが表示される (Linux のみ) ***

vRealize Automation と SSO 5.x を vCenter PSC 6.0 にアップグレードした後にテナントにアクセスできずに内部エラーが表示されます (Linux のみ)。

回避策: 詳細については、[「VMware vRealize Automation を vCenter SSO 5.5 から PSC \(Platform Services Controller\) 6.0 にアップグレードすると、テナントにアクセスできない \(Linux ベースの SSO のみ\)、ナレッジ ベース 2112030」](#) を参照してください。

- **IaaS データベースを手動で作成するために追加の引数が必要になる***

BuildDB.bat コマンドは、vRealize Automation のバージョン文字列を指定する引数を含んでいる必要があります。

```
BuildDB.bat /p:DBServer=db_server;  
DBName=db_name;DBDir=db_dir;  
LogDir=[log_dir];ServiceUser=service_user;  
ReportLogin=web_user;  
VersionString=version_string
```

vRealize Automation 6.1 の version_string は 6.1.0.3390 です。

- **vSphere ブループリントのためのリモート コンソール操作への接続を回復***

6.2.1 には、vSphere によってプロビジョニングされるアプライアンスのリモート コンソールのサポートが含まれています。6.2 から 6.2.1 にアップグレードする場合、既存のブループリントを変更し、[アクション] タブの [リモート コンソールを使用して接続] を有効にする必要があります。詳細については、[ナレッジベース 2109706](#) を参照してください。

- **VMware vRealize Automation IaaS のインストール画面が不正なバージョンを参照する***

vCloud Automation Center バージョン 6.1 へのすべての参照は、vRealize Automation バージョン 6.2 に適用されます。vRealize Automation バージョン 6.2 へのすべての参照は vRealize Automation バージョン 6.2.1 に適用されます。

- **VMware vRealize Automation 6.2.x IaaS のインストールまたはアップグレードを実行すると次のエラーが表示されて失敗する: exited with code -1***

この問題は、IaaS 仮想マシンに Java Runtime Environment (JRE) 1.8 がインストールされているために発生します。**回避策:** Java Runtime Environment (JRE) 1.8 をアンインストールし、JRE 1.7 をインストールします。[ナレッジベース 2101591](#) を参照してください。

- **Identity Appliance 管理コンソールのスプリット DNS 構成で警告が表示される***

スプリット DNS 構成で、Active Directory ドメインに参加することを選択している場合、Identity Appliance 管理コンソールに警告が表示されます。この警告メッセージは無視してかまいません。

回避策: domainjoin-cli --disable hostname command を実行して、コマンドラインから手動でドメインに参加します。この構文は、vCenter アプライアンスによって同じ domainjoin-cli に使用されます。

- **NTP 4.2.8 に、CVE-2014-9298 に記述されるセキュリティの脆弱性の問題が含まれる***

vRealize Automation、バージョン 6.2.1 では、NTP 4.2.8 で見つかったセキュリティの脆弱性を解決する修正が行なわれています。vRealize Automation の将来のリリースでは NTP の更新バージョンを利用できます。

- **IaaS カスタム インストール オプションを使用した Manager Service コンポーネントのインストールに失敗する**

データベース、Web サイトおよび Model Manager Data コンポーネントがすでにインストールされているマシンに Manager Service コンポーネントをインストールすることはできません。Manager Service コンポーネントをインストールしようとするすると失敗し、「仮想アプリケーション vcac は存在します」という内容のエラーメッセージが表示されます。

- **ノードと管理コンソール間のネットワーク接続が遅いためにログが最終バンドルに含まれない**

タイムアウトを超過すると、ログがアップロードされず、最終バンドルに含まれません。現在は、ノードでコマンドの実行が開始されてから 30 分後にタイムアウトするように固定されています。この問題は、ノードと管理コンソール間のネットワーク接続が遅い場合に発生する可能性があります。

- **デフォルト以外の SQL ポートを使用すると前提条件チェッカーで設定が検出されない**

カスタム インストールを実行し、デフォルト以外のインスタンスとポートを使用して、SQL のデータベース ノードを選択すると、Microsoft 分散トランザクション コーディネータ (MSDTC) が正しく構成されていて、MSDTC サービスが実行されていても、前提条件チェッカーで設定が検出されません。

回避策: MSDTC が実行されていることを手動で検証し、前提条件チェッカーで [バイパス] をクリックしてインストールを続行します。

- **6.1 から 6.2 にアップグレードすると、Identity 仮想アプライアンスのログイン ページに VMware vCloud Automation Center が表示される**

VMware vCloud Automation Center を 6.1.x から vRealize Automation 6.2 にアップグレードすると、Identity 仮想アプライアンスのログイン ページに VMware vRealize Automation ではなく、VMware vCloud Automation Center がブランド名として表示されます。

回避策： 管理コンソールの [SSO] タブに移動し、[設定の保存] を選択して、Identity 仮想アプライアンスに再登録します。新しいブランド名が表示されます。

- **PowerShell スクリプトが見つからないため、HP Server Automation Software の統合スクリプトが機能しない**

PowerShell スクリプトが見つからないため、HP Server Automation Software マシンの PXE 作成およびソフトウェア インストールのサポートが機能しません。

- **停止したマシンでアーカイブ ログが見つからない**

一部のマシンでアーカイブ ログが見つからない場合、マシンが停止状態かアクセス不能な状態です。

- **インストール ウィザードを使用して vRealize Automation データベースをカスタム ディレクトリにインストールすることができない**

分散（カスタム）インストールで、インストーラはデフォルト データベースとログ ディレクトリに対する変更を無視します。データベースとログは、デフォルトのディレクトリに作成されます。

回避策： データベースをデフォルト以外の場所にインストールするには、vRealize Automation をインストールする前に DBinstall スクリプトを使用してデータベースをインストールします。

- **IaaS Web と Model Management のインストール中に、IIS の問題が原因で IaaS 認証に失敗する**

前提条件チェッカーの実行中に、「認証が有効になっていないため、IIS 認証に失敗した」という内容のメッセージが表示されますが、IIS 認証チェック ボックスはオンになっています。

回避策：

1. [Windows 認証] チェック ボックスを選択解除します。
2. **保存** をクリックします。
3. [Windows 認証] チェック ボックスをオンにします。
4. **保存** をクリックします。
5. 前提条件チェッカーを再実行します。

- **共通名に大文字が含まれていると、Single Sign-On 証明書の検証に失敗する**

Single Sign-On アプライアンスに証明書を割り当てると、すべての文字列が小文字に変換されます。検証プロセスでは大文字と小文字が区別されるため、プロセスが失敗します。証明書名に大文字が含まれていても、検証プロセスで検索されるのはすべて小文字の名前であるためです。

回避策: [vRealize Automation Appliance] > [vRA 設定] > [SSO] で SSO ホスト アドレスを指定する際、SSO アプライアンスへ証明書を割り当ての場合と同様に、大文字小文字を区別してアドレスを入力します。

- **不正なホスト名が指定されると、インストールに失敗する**

次のようなエラーが表示され、インストールに失敗します。

情報: 2014-06-17 10 42 32 059 AM : System.AggregateException: One or more errors occurred.---> System.Net.Http.HttpRequestException: An error occurred while sending the request.---> System.Net.WebException: The remote name could not be resolved: 'po-va-rtq8c.sqa.local'Cause: 原因: [vCAC 設定] > [ホストの設定] の [VCAC HostName] フィールドに不正な名前が入力されると、問題が発生します。

回避策:

1. 仮想アプライアンス構成ファイル /etc/sysconfig/network/dhcp を編集して適切なホスト名を含めます。
2. 仮想アプライアンスを再起動します。
3. 仮想アプライアンス管理コンソールにログインします。
4. [vRA 設定] タブを開き、[ホストの設定] をクリックします。
5. [ホスト名] テキスト ボックスに正しい名前を入力します。
6. [設定の保存] をクリックします。
注: [ホスト名の解決] をクリックしないでください。
7. 仮想アプライアンスの構成を完了し、インストールを続行します。

移行

- **vApp コンポーネントの削除日が、vRealize Automation 5.2.x バージョンから移行した vApp の vApp コンテナのものと異なる**

vRealize Automation 5.2x バージョンから移行した vApp に、コンポーネントとコンテナ間で一致しない削除日が表示されます。コンポーネントには有効期限と同じ日が削除日として表示されますが、コンテナには正しい情報が表示されます。vRealize Automation ではコンテナ情報を基に vApp リースが管理されるため、コンポーネントが有効期限日より前に削除されることはありません。

- **移行後、[イベントのカレンダー] ポートレットに正しい作成日が表示されない**

移行後、[イベントのカレンダー] ポートレットで、移行したすべてのアイテムの移行日が作成日として表示されます。この問題は、実際の日付または正しい日付に関わらず発生します。

- **移行前の確認で誤って、「ターゲット システムにエージェントがありません」という内容が報告される**

移行前には、ターゲット システム内にソース システムのエージェント名が存在することを検証する確認が実行され、不一致が検出された場合にはレポートにメッセージが生成されます。移行前レポートには、一致するエージェントがターゲット システムに存在する場合でも、「ターゲット システムに一致するエージェントが見つかりませんでした。ターゲット システムに一致する名前のエージェントをインストールします。」という内容のメッセージが含まれる場合があります。

ターゲット システムに一致するエージェントが存在しても、エージェントにエンドポイントが構成されていない場合は、メッセージが誤って生成されます。

回避策：移行前レポートにメッセージが表示され、一致するエージェントがターゲット システムに存在しない場合には、ターゲット システムにエージェントのエンドポイントを構成してから、移行を再実行します。あるいは、メッセージを無視して、移行の完了後、エンドポイントを構成します。

国際化

- **[アイテム] タブの仮想マシン名に ASCII 以外の文字が使用されていると、スナップショットを作成できない**

[アイテム] タブの仮想マシン名に ASCII 以外の文字が使用されていると、仮想マシンのスナップショットを作成できません。

回避策：仮想マシンの名前を変更し、英文字を使用してスナップショットを作成します。

- **Unicode 文字を含むゲスト エージェント カスタム スクリプトが、無限ループのままとなる**
スクリプト名に Unicode 文字を含むゲスト エージェントがあるカスタム スクリプトを使用する場合、仮想マシンはプロビジョニングされず、リクエストは無限ループのままとなります。

回避策：スクリプト名に Unicode 文字を使用しないでください。

ネットワーク

- **VMware NSX タスクによるマルチマシンのブループリントの同時デプロイが進行中の状態のままになる**

回避策：この既知の問題を解決するには、[KB 2128908](#) を参照してください。

- **複数の VDR ルーティング ネットワークでロード バランシングが有効になっている場合、同じ NSX Edge が使用される**

マルチマシン ブループリントにおいて複数の VDR ルーティング ネットワークでロード バランシングが有効になっている場合に、1 つの NSX Edge が Edge のアップリンク側の両方のネットワークに接続されます。この状況では、1 台以上のロード バランサ仮想サーバがアクセス不能になることがあります。

- **vCenter Server でネットワークを再構成した後に、vRealize Automation の仮想マルチマシン コンポーネントに対する誤ったネットワーク設定が表示される**

vRealize Automation で仮想マルチマシン コンポーネントの vCloud Networking and Security (NSX) ネットワークを再構成することはできません。代わりに、vSphere Client を使用して vCenter Server のネットワークを再構成する必要があります。仮想マルチマシン コンポーネントの一部のネットワーク設定が vRealize Automation に正しく表示されなくなることに注意してください。

回避策： vCenter Server でネットワークを更新し、適切なネットワーク設定をリストアします。

Application Services

- **グローバル プロキシ設定を構成したかどうかにかかわらず、展開環境のプロキシ設定が使用されない**

darwin_global.conf ファイルでプロキシ設定をグローバル構成しているかどうかにかかわらず、展開環境レベルでプロキシ設定を構成しても、そのプロキシ設定が展開時に適用されません。

- **vRealize Automation 6.2 バージョンを使用して Application Director から vRealize Automation のカタログにブループリントを公開することができない**

vRealize Automation を 6.0.1.x または 6.1 から 6.2 にアップグレードし、vRealize Automation カタログにブループリントを公開しようとする、と、「予期しないエラーが発生しました。システム管理者にお問い合わせください。」という内容のエラー メッセージが表示されます。この問題は、vRealize Automation 6.2 バージョンに新規登録された Application Director のインスタンスでは発生しません。

回避策： Application Director 6.0.1.x または 6.1 を vRealize Automation 6.2 から登録解除して、もう一度 Application Director を vRealize Automation に登録します。

- **テナント間の物理サービスおよび Application Services を削除すると、ファブリック管理者のアクセスが拒否される**

テナント間の物理サービスおよび Application Services を削除すると、ファブリック管理者はアクセス拒否メッセージを受け取ります。

回避策： マシンが存在するテナントのファブリック グループのファブリック管理者としてログインします。

- **vRealize Automation では、同一システムにあり同じ名前を持つ複数のホストがサポートされない**

データ収集は、ホスト名に基づいてホストを更新します。2つのエンドポイントに同じ名前のホストがあると、エンドポイントはホストの所有権に関して競合します。

回避策：すべてのホスト名が一意になっていることを確認します。

- **Application Service で、ブループリント キャンバス内のディスクに説明を追加できない**
Windows Internet Explorer 11 を使用する場合、ブループリント キャンバスの [ディスク] タブで、ディスクに説明を追加できません。

回避策：ブループリント キャンバス内のディスクに説明を追加するには、Chrome または Firefox を使用する必要があります。

- **Application Director 6.0.1.x または 6.1 で展開された Puppet サービスを使用したノードを更新できない**
Application Services 6.2 では、Application Director 6.0.1.x または 6.1 で展開された Puppet サービスを使用するノードの更新をサポートしていません。Application Services 6.2 では、特定のサービスを更新できる Puppet ノード マニフェストを作成します。Application Director 6.0.1.x または 6.1 で生成されたノード マニフェスト ファイルと互換性はありません。

回避策： [ナレッジ ベース 2088837](#) を参照してください。

Advanced Service Designer

- **接続のテスト時に、エラー「Orchestrator サーバに接続できません。」が表示される***
vRealize Automation 管理コンソールへのログイン中に接続をテストし、エラー「Orchestrator サーバに接続できません。」が表示されると、vRealize Orchestrator エンドポイントが登録されません。この問題は不規則に発生します。

回避策：この問題を解決するには、Orchestrator サービスを再登録する必要があります。

1. vRealize Appliance Linux コンソールに root としてログインします。
2. 「vcac-vami vco-service-reconfigure」と入力し、Enter キーを押します。
3. ログアウトして、vRealize Orchestrator の接続をテストします。

- **vRealize Orchestrator プレゼンテーションのバインド後に Advanced Service Designer のフィールド値の制約が評価されない**
申請フォームを設計する際に、フィールドの制約にフォームの別のフィールドへのバインドが使用されており、その別のフィールドの値が vRealize Orchestrator プレゼンテーションで定義されたバインド式に基づいて計算されていると、制約が正しく適用されません。フィールド間のバインドは、vRealize Orchestrator プレゼンテーションまたは Advanced Service Designer フォームのいずれかで定義されている必要があります。
- **誤ったフィールド チェックが Advanced Service Designer で発生する場合がある**
作成モードでエンドポイント タイプを変更すると、誤ったフィールド チェックが発生することがあります。

回避策: 次の手順を実行してください。

1. エンドポイント作成ウィザードが開いている場合は、これを閉じます。
2. 新しいエンドポイント作成ウィザードを開始します。
3. ウィザードの最初のページで正しいプラグインのタイプを選択します。
4. **[フォーム プレゼンテーション]** タブで、必要なデータを入力します。
5. 構成を保存します。

適正なフォームのコンディショナル制約が実行されます。

- **Advanced Service Designer フォームでは数値の最大値と文字列の最大長の条件が vRealize Orchestrator から入力されない**

サービス アーキテクトが Advanced Service Designer でブループリント フォームを作成し、最大値の条件が関連付けられている数値フィールドまたは最大長の条件が関連付けられている文字列フィールドを含む vRealize Orchestrator ワークフローをロードする場合、これらのフィールドに適用されている制限はブループリントの **[制約]** タブに表示されません。

回避策: サービス アーキテクトは、次のようにして制約を手動で再入力する必要があります。

1. 入力パラメータの **[編集]** オプションをクリックします。
2. **[制約]** タブをクリックします。
3. パラメータが数値の場合は最大値、パラメータが文字列の場合は最大長の制限を挿入します。

- **null を返す可能性のある定義済み回答アクションが string 配列型に入力されたワークフローを選択すると、Advanced Service Designer でサービス ブループリントまたはリソース アクションを作成できない**

Advanced Service Designer でサービス ブループリントまたはリソース アクションを作成しているときに、vRealize Orchestrator ワークフローを選択し、そのワークフローのプレゼンテーション内で、null を返す可能性のあるスクリプト アクションを呼び出す定義済み回答プロパティの入力パラメータが string 配列型に指定されている場合、**[次へ]** をクリックするとプロセスが失敗して、次のエラー メッセージが表示されます。内部エラー。内部エラーが発生しました。問題が解決しない場合は、システム管理者にお問い合わせください。その際、次の参照番号を使用してください：

回避策: vRealize Orchestrator クライアントの **[デザイン]** パースペクティブで、null を空の配列に置き換えて、定義済みの回答を編集します。たとえば、次のアクション スクリプト コードがあるとしたら。

```
if (someCondition) {  
    return ["a", "b", "c"];  
} else {
```



```
return null;
}
```

コードを次のように変更する必要があります。

```
if (someCondition) {
return ["a", "b", "c"];
} else {
return [];
}
```

構成とプロビジョニング

- **アイテムの数が 25 の倍数の場合、ページネーション リクエストを実行するとエラーが発生し、最終ページのレコードが表示されない***

たとえば、ビジネス グループの数が 25 の倍数の場合にビジネス グループの最終ページに移動すると、次のようなメッセージを含むメッセージ ボックスが表示されます。

インデックスが範囲外です。値は負ではなく、コレクションのサイズよりも小さい必要があります。パラメータ名: index

メッセージ ボックスで [OK] をクリックします。

次のユーザー インターフェイスのページがこのフィルターの問題の影響を受けます。

- バルク インポートの詳細
- [Amazon AMI] ピッカー
- [OpenStack イメージ] ピッカー
- [VSphere からのクローン] ピッカー
- ビジネス グループ リスト
- 最近のイベント
- 管理対象マシン
- 予約マシン
- ログ
- 監査ログ
- ワークフロー履歴
- ワークフロー履歴の詳細

回避策：エンティティ（ビジネス グループなど）をもう 1 つ作成して 25 の倍数の問題が生じないようにします。または、別の並べ替え順序またはフィルタを適用して 25 の倍数の問題を回避し、アイテムをリストの最終ページに表示します。

- **ページ フィルタ リクエストがエラーを返し、ページが機能を停止する***

たとえば、ビジネス グループに対するカスタム フィルタを作成し、ビジネス グループ名 BG1 または BG2 の結果のみをフィルタすると、次のようなメッセージが表示されます。

The expression (((Convert([10007].GroupType) == 0) And ([1007].TenantID == "sqa")) And Not(Like([10007].GroupName, "by"))) is not supported.

メッセージボックスで [OK] をクリックすると、ビジネス グループのユーザー インターフェイスはそのセッションで機能しなくなります。イベント ログの内容は次のようになります。

Exception of type 'System.Web.HttpUnhandledException' was thrown.Inner Exception: The expression (((Convert([10007].GroupType) == 0) And ([10007].TenantID == "sqa")) And Not(Like([10007].GroupName, "by"))) is not supported.

次のユーザー インターフェイスのページがこのフィルターの問題の影響を受けます。

- バルク インポートの詳細
- [Amazon AMI] ピッカー
- [OpenStack イメージ] ピッカー
- [VSphere からのクローン] ピッカー
- ビジネス グループ リスト
- 最近のイベント
- 管理対象マシン
- 予約マシン
- ログ
- 監査ログ
- ワークフロー履歴
- ワークフロー履歴の詳細

回避策：ユーザー インターフェイスの正しい使用を回復するには、一度ログアウトしてからもう一度ログインし、新しい vRealize Automation セッションを開始します。

- **再構成の承認リクエストのコストが正しく表示されない**

既存のマシンのコンピュート リソースのコストを変更して、より多くのメモリ、CPU、およびストレージで再構成しても、再構成の承認申請のコストが正しく表示されません。その代わりに、古い値が表示されます。

- **マルチマシン ブループリント レベルで構成された VCNS.LoadBalancerEdgePool.Names プロパティを使用して、定義済みのロード バランサでマルチマシン サービスをプロビジョニングすることはできない**

マルチマシン ブループリントで VCNS.LoadBalancerEdgePool.Names プロパティを指定して、マルチマシン コンポーネントを定義済みのロード バランサに追加しても、マルチマシン サービスのプロビジョニングが成功した直後に破棄が始まり、次のエラー メッセージも表示されます：1 つ以上のネットワークおよびセキュリティ設定の構成に失敗しました。Error: 起動するターゲットで例外が発生しました というエラー メッセージが表示されます。

回避策：スタンドアロン仮想マシンのブループリント レベルでカスタム プロパティ VCNS.LoadBalancerEdgePool.Names を定義します。

- **[メトリック プロバイダの構成] タブにエラーが表示される**

vRealize Automation メトリック プロバイダが最初から選択されている **[メトリック プロバイダの構成]** タブに移動し、**[vRealize Operations のエンドポイント]** オプションを選択し、vRealize Automation メトリック プロバイダを選択し直し、**[保存]** をクリックすると、「強調表示されているエラーを修正してください」という内容のエラー メッセージが表示されます。

回避策： ブラウザを更新するか、vRealize Automation ユーザー インターフェイスからログアウトし、ログインし直します。

- **カスタマイズ中のエラーが原因で、vApp がプロビジョニングに失敗する場合がある**

vApp テンプレートの仮想マシンのハードウェア設定を変更してからテンプレートを更新すると、エンドポイント データ収集を実行しない限り、仮想マシンをプロビジョニングすることができなくなります。

- **ユーザーに新しいロールが付与された後、タブが更新されない**

ユーザーに新しいロールを付与した後、ログアウトしてから再度ログインし直しても、そのロールの特定のタブが少なくとも 5 分から 10 分の間表示されないことがあります。

- **以前追加したポートレットが [ホーム] タブで完全にレンダリングされない場合がある**

Internet Explorer 8 または 9 を使用して vRealize Automation にログインし、**[ホーム]** タブで追加のポートレットを追加すると、vRealize Automation にすでに表示されている以前のポートレットが完全にはレンダリングされないことがあります。

回避策： ブラウザを更新します。

- **新しいオペレーティング システムのバージョンを使用して事前定義済みの Puppet ベースの Test App 1.0.0 または Puppet ベースの Test App 1.0.1 を展開するとエラーが発生する**

事前定義済みの Puppet ベースの Test App 1.0.0 または Puppet ベースの Test App 1.0.1 のブループリントで新しいオペレーティング システムのバージョンを作成および使用し、アプリケーションを展開する場合、「予期しないエラーが発生しました。システム管理者にお問い合わせください。」という内容のエラーメッセージが表示され、展開に失敗します。

回避策： 新しいオペレーティング システムのバージョンではなく、ブループリントで事前定義済みのオペレーティング システムのバージョンを再使用します。

- **誤った UPN 形式の認証情報を使用して IaaS 管理者としてログインを試みると説明もなく失敗する**

ユーザー名に @yourdomain の部分を含めない UPN 認証情報を使用して IaaS 管理者として vRealize Automation にログインしようとする、即座に SSO からログアウトされ、説明なくログイン ページにリダイレクトされます。

回避策： 入力する UPN は、<yourname>.admin@<yourdomain> の形式に準拠する必要があります。たとえば、ユーザー名として jsmith.admin@sqa.local を使用してログインし、Active

Directory の UPN に jsmith.admin のみが設定されていると、ログインは失敗します。この問題を修正するには、userPrincipalName に必要とされている @<yourdomain> コンテンツを含めてログインを再試行します。この例では、UPN 名を jsmith.admin@sqa.local にする必要があります。この情報は log/vcac フォルダのログ ファイルに提供されています。

- **電子メール テンプレートのカスタマイズの動作が変更され、外部テンプレートが使用できない**

vRealize Automation 6.0 以降の場合、以前のバージョンの電子メール テンプレート機能を使用してカスタマイズできるのは、IaaS コンポーネントによって生成された通知のみです。

回避策: 次の XSLT テンプレートを使用できます。

- ArchivePeriodExpired
- EpiRegister
- EpiUnregister
- LeaseAboutToExpire
- LeaseExpired
- LeaseExpiredPowerOff
- ManagerLeaseAboutToExpire
- ManagerLeaseExpired
- ManagerReclamationExpiredLeaseModified
- ManagerReclamationForcedLeaseModified
- ReclamationExpiredLeaseModified
- ReclamationForcedLeaseModified
- VdiRegister
- VdiUnregister

電子メール テンプレートは、サーバのインストール ディレクトリの \Templates ディレクトリ、通常は %SystemDrive%\Program Files x86\VMware\vCAC\Server にあります。Templates ディレクトリには XSLT テンプレートもありますが、すでにサポートされていないので変更できません。Configuring Notificationsの詳細については、VMware vCloud Automation Center 6.2 ドキュメント センターの「[通知の構成](#)」を参照してください。

- **プロビジョニングされたマシンのアクションが終了する前に完了のマークが付けられる**
[再プロビジョニング]、[パワーオフ] などのアクションは、操作が処理中であっても [申請] ページに [完了] と表示されることがあります。マシンの実際のステータスは、[アイテム] ページに反映されます。
- **ゲスト エージェント ファイル SCCMPackageDefinitionFile.sms を更新する必要がある**
ゲスト エージェント ファイル SCCMPackageDefinitionFile.sms には、古い名前と公開者情報があります。これは、動作には影響しません。
- **リース日を [承認ポリシー] 値の範囲外に変更できる**
リースの変更 リソース アクションを使用すると、リース日をブループリントで指定されている最大リース範囲以降の日付に変更できます。

- **削除したカスタム グループが資格から削除されない**

資格にリンクされているカスタム グループが削除された場合、カスタム グループは資格から削除されません。

回避策：カスタム グループを削除して、資格から削除するには、次の手順を実行します。

1. 資格からカスタム グループを削除します。
2. カスタム グループを削除します。

- **ビジネス グループ ロールをカスタム グループから削除しても、資格を破棄できない**

資格にリンクされたカスタム グループをビジネス グループ ロールから削除した場合、カスタム グループは資格から削除されません。

回避策：ビジネス グループ ロールをカスタム グループから削除して、資格から削除するには、次の手順を実行します。

1. 資格からカスタム グループを削除します。
2. ビジネス グループ ロールからカスタム グループを削除します。

- **Hyper-V エンドポイントが、誤って Infrastructure Organizer で管理対象外のマシンとして表示される**

Hyper-V エンドポイントでプロビジョニングが失敗すると、vRealize Automation はそのマシンを削除されたマシンとしてレポートしますが、マシンはエンドポイントのままになり、Infrastructure Organizer に管理対象外のマシンとして表示されます。

- **Citrix XenDesktop/Provisioning Service マシンをプロビジョニングした場合、マシンがプロビジョニングされていない状態のままになる**

この問題は VMware VDI エージェントおよび Citrix、BMC、Opware、VBScriptsagent などのすべてのバージョンの VMware EPI エージェントに発生する場合があります。この問題はまた、マスター ワークフロー マシン プロビジョニング サイクル全体にわたってさまざまな時点で発生する場合があります。

すべてのサードパーティのサーバ要求を処理できるように、空白のままにせずに、特定のサーバ名を使用するようにエージェントがインストールされた可能性があります。特定のサーバ名が入力されている場合、このエージェントはこのサーバ名に正確に一致するサーバの要求のみを処理できます。vRealize Automation はカスタム プロパティ `EPI.Server.Name` または `VDI.Server.Name` の値を使用して、一致するエージェントを特定し、要求を処理します。一致するエージェントが見つからない場合、マシンはプロビジョニング中に一致するエージェントが見つかるまで、`EPIRegister`/プロビジョニング済みマシン状態、またはプロビジョニング解除/無効マシン状態のままとなります。

回避策：`EPI.Server.Name`/`VDI.Server.Name` で入力されたサーバ値と正確に一致する新しい EPI/VDI エージェントをインストールするか、サーバ名を空白のままにします。

または、次の手順に従って、現在のエージェントのエージェント構成ファイルを更新して、サーバ値を変更できます。

1. 通常、C:\Program Files (x86)\VMware\VCAC\Agents\<agentName>\VRMAgent.exe.config に保存されているエージェントの構成ファイルをバックアップします。
2. 管理者としてテキスト エディタを開きます。
3. 任意のエージェントのタイプに対する変更を行うには、SERVER_NAME_VALUE を使用しているサーバ名で置き換えるか、空白のままにします。
`epiIntegrationConfiguration epiType="CitrixProvisioning" server="SERVER_NAME_VALUE"`
`vdiIntegrationConfiguration vdiType="XenDesktop" server=""X`
4. 変更内容を保存します。
5. エージェント サービスを再起動します。

- a. **スタート > 管理ツール > サービス** をクリックします。
- b. 目的の VMware vRealize Automation エージェント サービスを右クリックして、**[再起動]** をクリックします。
- c. エージェントが正常に再起動した後、ジョブは想定どおりに続行されます。

• **管理者が数百ものグループのメンバーである場合、[インフラストラクチャ] タブを開こうとすると失敗する**

Active Directory と SSO を使用する場合、多くのグループのメンバーである IaaS 管理者は [インフラストラクチャ] タブを表示できない場合があります。これを試みると、次のいずれかのエラーが発生します。

- 不正なリクエスト - リクエストが長すぎます - HTTP エラー 400. リクエスト ヘッダのサイズが長すぎます。
- サービスにアクセスできません - 指定アドレスで要求されたサービスに接続できません。詳細はシステム管理者にお問い合わせください。参照エラー REP0404。

回避策: 次の例のようにトークンの制限を引き上げます。

1. Kerberos トークンの最大サイズを決定して設定します。正しい Kerberos トークンの最大サイズを決定するには、以下のガイドラインに従います。

$\text{Kerberos MaxTokenSize} = 1200 + 40d + 8s$ (バイト)

この式は次の値を使用します。

- d -- ユーザーがメンバーになっているドメインのローカル グループの数、ユーザーがメンバーになっているユーザーのアカウント ドメインの外部にあるユニバーサル グループの数、およびセキュリティ ID (SID) 履歴に表示されるグループの数の合計。
- s -- ユーザーがメンバーになっているセキュリティ グローバル グループの数およびユーザーがメンバーになっているユーザーのアカウント ドメイン内のユニバーサル グループの数。

ープの数の合計。

- 1200 -- チケット オーバーヘッドの推定される値。この値は、DNS ドメイン名の長さやクライアント名などの要素によって変化します。

2.レジストリ エントリの修正が必要かを判断します。上の式を使用して計算するトークン サイズが 12,000 バイト（デフォルト サイズ）未満の場合、ドメイン クライアントの MaxTokenSize レジストリの値を修正する必要はありません。値が 12,000 バイト以上の場合 は、MaxTokenSize レジストリの値を調整します（<http://support.microsoft.com/kb/263693> を参 照）。Kerberos の MaxTokenSize の値を変更する必要がある場合は、次のレジストリ エントリ を修正します。

HKLM\System\CurrentControlSet\Control\Lsa\Kerberos\Parameters

MaxTokenSize、REG_DWORD、<値>（MaxTokenSize レジストリ エントリの推奨値は 10 進数の 65535 または 16 進数の FFFF です）。

3.次のガイドラインを使用して、展開するための正しい HTTP の最大リクエスト サイズを決 定および設定します。ここで、*T* は上で設定した Kerberos の MaxTokenSize です。

$\text{MaxFieldLength} = (4/3 * T \text{ バイト}) + 200$

$\text{MaxRequestBytes} = (4/3 * T \text{ バイト}) + 200$

MaxFieldLength と MaxRequestBytes を計算された値に設定します。次の例では、許可される最 大値に設定されています。

HKEY_LOCAL_MACHINE\System\CurrentControlSet\Services\HTTP\Parameters

MaxFieldLength DWORD 65534

MaxRequestBytes DWORD 16777216

ユーザーが多くのグループに属する場合の Kerberos 認証の問題に関する詳細については、次 のサポートに関する記事を参照してください。

<http://support.microsoft.com/kb/327825>

<http://support.microsoft.com/kb/263693>

<http://support.microsoft.com/kb/2020943>

廃止された機能とサポート